

# 正会員候補者推薦の手順について

公益社団法人日本工学アカデミー会員選考委員会

(2025 年 11 月 13 日改定版)

本 文： 日本工学アカデミー正会員候補者推薦の手順について

添付資料 1： 正会員候補者推薦ガイドライン

添付資料 2： 日本工学アカデミーの活動への参画とその利点

付：現在、活動中の委員会、プロジェクト等

添付資料 3： 正会員候補者推薦要領

添付資料 4： 正会員候補者推薦書記入要領

添付資料 5： 学位(博士)に関する候補者の扱い

添付資料 6： 正会員候補者推薦書（様式）

正会員候補者情報記入例（学界用）

正会員候補者情報記入例（産業界用）

添付資料 7： 正会員候補者推薦 確認書

添付資料 8： 正会員候補者推薦 連絡書

## 日本工学アカデミー正会員候補者推薦の手順について

本アカデミーは会員各位の真摯なご活躍のお蔭をもちまして健全な発展を遂げ、特にわが国の科学技術政策に関する一連の提言や、また先進技術に関する国際交流の拡大など、最近の活発な動きは各方面で注目を集めています。

今後こうした活動をさらに充実させるために、より多くの方々に会員として活躍していただくことが望まれます。会員の皆様におかれましては、下記の基準等をご参照の上、会員となるにふさわしい方を積極的にご推薦いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

- ・ 会員推薦の基準：わが国における工学および関連する分野において指導的立場にあり、かつ、本アカデミーの活動を通じて、わが国の工学の発展ならびに地球および人類の持続的成長に貢献する意思を有する方。詳しくは添付資料 1 をご参照ください。
- ・ 会員の活動とその利点：候補者となる方には添付資料 2 を利用してご説明ください。
- ・ 会費

2022 年 6 月 6 日社員総会決議で以下のように定められています。

『定款第 7 条に定める会費はつぎのとおりとする。

1. 正会員の会費は、毎会計年度 4 月 1 日現在満 45 歳未満は年額 2 万 5 千円、45 歳以上 65 歳未満は年額 5 万円、65 歳以上は 3 万円とし、会計年度ごとに納入する。ただし、会員歴 10 年以上で 80 歳に達した者は会費免除とする。
2. その年度の 10 月 1 日以降に入会した正会員については入会年度の会費は半額とし、1 月 1 日以降に入会した正会員についてはその年度の会費は免除とする。
3. 客員会員の会費は、正会員に準じる。なお、海外アカデミーの会員である客員会員は会費免除とする。
4. 賛助会員の会費は、年額 1 口 20 万円とする。
5. 会長は、特別の事情のある会員に対し、理事会の議を経て会費を減免することができる。』

正会員の具体的な推薦方法は以下のとおりです。

- 1) ご自身で代表推薦人になっていただくか、代表推薦人を他の方をお願いしていただき、添付資料 3 「正会員候補者推薦要領」、及び添付資料 4 「正会員候補者推薦書記入要領」に従って推薦手続きを進めてください。
- 2) 推薦したい方が自分とは専門分野が異なり、適当な代表推薦人の心当たりがない場合、またはあっても直接自分からは依頼しにくい場合などは、添付資料 8 「正会員候補者推薦 連絡書」（自由様式も可）にて事務局にご連絡ください。会員強化委員会において適否を検討の上、代表推薦人を選び推薦作業を依頼します。

以上

## 添付資料 1 正会員候補者推薦ガイドライン

### (1) 会員候補者資格の基準

わが国における工学および関連のある分野において、以下に例示するような観点から指導的立場にあり、かつ、本アカデミーの活動を通じて、わが国の工学の発展ならびに地球および人類の持続的発展に貢献する意思を有する方。

- ① 工学および関連のある分野における先駆的研究開発に顕著な成果をあげた方、 また、先駆的研究開発成果の実用化に際して顕著な貢献をなした方
- ② 産業界において、先駆的あるいは極めて困難な事業を遂行するに当たって顕著な成果をあげた指導的立場の方
- ③ 工学に関連した教育・行政・国際関係・社会経済システムなどの分野において顕著な功績のあった方

### (2) 特にご推薦いただきたい候補者

今後本アカデミー会員の幅を広げ、一層効果的な活動ができるようにするため、これまでの候補者に加えて、特に下記①～③の候補者を積極的にご推薦いただきたいと考えています。

- ① 若手候補者：現在の正会員の平均年齢はほぼ 70 歳ですが、本アカデミーでは今後より若い層の会員の活躍を期待したいと考えています。(1) の基準を満たす限り、年齢にかかわらずご推薦ください。
- ② 産業界候補者：本アカデミーは産、学、公的研究機関など、広い分野の正会員を擁しているところに特色があります。しかし、近年産業界からの入会が減少傾向にありますので、民間企業所属の候補者を多数ご推薦いただきたいと考えています。
- ③ 女性候補者：男女共同参画時代ですが、現在、本アカデミーの女性会員は正会員の 1 割未満に過ぎません。今後積極的に女性会員の数を増やしたいと考えています。

なお、これらの候補者に対して入会資格が緩和されることを意味するものではありません。上記 (1) の基準は通常と全く同様に適用されます。

以上

## 添付資料2 日本工学アカデミーの活動への参画とその利点

日本工学アカデミー（以下 EAJ）の会員は、EAJ を次のような場と捉え、その諸活動に参加することを通じて以下のような利点を享受することができます。また同時にその活動が、わが国の工学の発展や地球および人類の持続的発展に貢献することにもなります。

### （1） 工学に関する提言を社会に発信し、社会に貢献することのできる場

※政策提言やプロジェクトなどの EAJ 活動に参画できます。

※関心ある既存活動がない場合は、自分で同志を募ってプロジェクトを新設できます。

（利点）広い専門分野にわたる多くの有識者と、多角的な視点から質の高い議論ができ、自身の描いていた構想をより高いレベルに発展させることができます。またその提言を政界、行政、産業界、学界などに広くアピールし、自分が描いた構想を国家政策として、あるいは現実の活動として具現化することが可能です。

### （2） 新しい知識獲得の場、また異分野を含む多方面の優れた人材との人脈形成の場

※委員会、プロジェクト、地区活動などで組織的な活動をし、また、談話サロン、シンポジウム、総会、賀詞交歓会などの機会に聴講・討論・談話に参画できます。

（利点）EAJ は産、学、官、公的研究機関を広くカバーし、それぞれにおける優れた人材を多数擁しています。それらの人々との交流を通じて、学会などで得られるものとは違った幅広い分野の知識を獲得することができ、また人間的に啓発されることも多いといえます。そこで形成された人脈は貴重な財産となります。

### （3） 地球規模の課題解決に取り組み、グローバルな視野拡大を図れる場

※国際活動では多彩な活動が展開されていますので、幅広い国際的な会合等に参画することができます。

（利点）EAJ は国際工学アカデミー(CAETS)の有力メンバーであり、そのネットワークを利用して下記のような国際活動を展開しています。これらの活動に参画し、地球規模の課題解決に取り組むことができます。またそうした活動を通じて国際的な視野を広げ、かつ海外有識者との人脈形成ができます。

- ① 日米先端工学（JAFOE）シンポジウム
- ② 東アジア工学アカデミー円卓会議(EA-RTM)及び併催シンポジウム
- ③ 日豪理工学アカデミー（ERLEP）若手交流事業
- ④ 日独先端工学（JAGFOE）プログラム
- ⑤ 諸外国開催のシンポジウム、ワークショップなどへの参画

以上

付：現在、活動中の委員会、プロジェクト等

（最新情報は EAJ ウェブサイト <https://www.eaj.or.jp/?name=main-activities> などを参照のこと）

【委員会等】理事会で設置を審議、承認します。分担事業の企画立案・実施の中心となります。

会員選考委員会、企画運営会議、企画推進グループ、政策提言委員会、政策共創推進委員会、研究力強化委員会、科学技術イノベーション 2050 委員会、国際委員会、若手委員会、人材育成委員会、ジェンダー委員会、広報委員会、会員強化委員会

【プロジェクト】政策提言に結び付けるテーマについて、随時、会員から提案を受付。理事会承認後直ちに活動が始まります（期間は 2 年間、提言公表で終了が義務付けられています）。途中からの参加も歓迎です。

【支部・地区活動】それぞれの地区で講演会、懇談会などを年数回開催し、会員間を中心に交流を進めています。現在、1) 北海道支部、2) 東北支部、3) 中部支部、4) 関西支部、5) 九州支部が活動しています。

【その他】見識を広め、人的交流を深める好機です。会員提案を審議の上、実施します。

- 1) 談話サロン：会員・賛助会員を中心に親睦を深め、テーマに関して、意見を述べあいます。
- 2) 公開討論会もしくはシンポジウム：議長や司会を置き、テーマについて、立場が違う何人かが意見を述べ、参会者と質疑応答を行います。
- 3) フォーラム：テーマについて、集団討議、情報交換を行います。
- 4) ワークショップ：参加者が、経験や作業について、情報交換し、議論を通じて、研鑽を積みます。また、社員総会（EAJ フォーラム・懇親会も併催）、賀詞交歓会も人的交流を深める好機となります。

以上

### 添付資料3 正会員候補者推薦要領

#### (1) 代表推薦人の決定

正会員候補者を推薦したい正会員は、本人に入会意思があることを確認した上で、代表推薦人を決める。通常は自分自身が代表推薦人となるが、自分よりも適任者がいる場合には、その人に代表推薦人となることを依頼し、自分は推薦人になる。また、代表推薦人を選定できない場合は、「正会員候補者推薦連絡書」（添付資料7、または自由様式）を用いて事務局に連絡する。

#### (2) 推薦人の決定

代表推薦人は自分以外に最低2名の推薦人を選定する。多面的な視点から推薦するために、代表推薦人と推薦人の3名が同じ勤務先に属さないよう配慮する。

#### (3) 会員候補者推薦書の作成（添付資料4「正会員候補者推薦書記入要領」参照）

- ① 代表推薦人は「正会員候補者推薦書」（添付資料6）を用いて、まず候補者本人に関わる情報を本人に記入してもらう。候補者の業績欄は、単に論文や特許を並べるのではなく、「候補者が学術的に、あるいは社会・産業的にどのような成果を上げたか、社会活動でどのような実績を上げてきたか」について文章で総合的かつ簡潔に記述してもらう。（添付資料6：記入例参照）
- ② 次に自分が所定欄に推薦理由を記入し、記入済み様式を電子メールに添付して、推薦人1、2に送る。
- ③ 推薦人1、2は自分の推薦理由を記入し、代表推薦人に電子メール添付で返送する。
- ④ 代表推薦人は、返送された推薦書から必要な情報を転記し推薦書を完成させる。

①～③では次の点に留意する。

- i. 多面的な視点からの推薦理由が望まれることから、3人の推薦理由が類似の文面とならないようにする。
- ii. 入会后どのような活動をすることが期待されるかも記載することが望ましい。
- iii. 電子メール添付で送付する際は、個人情報の扱いについて十分配慮する。

#### (4) 正会員候補者推薦書の提出

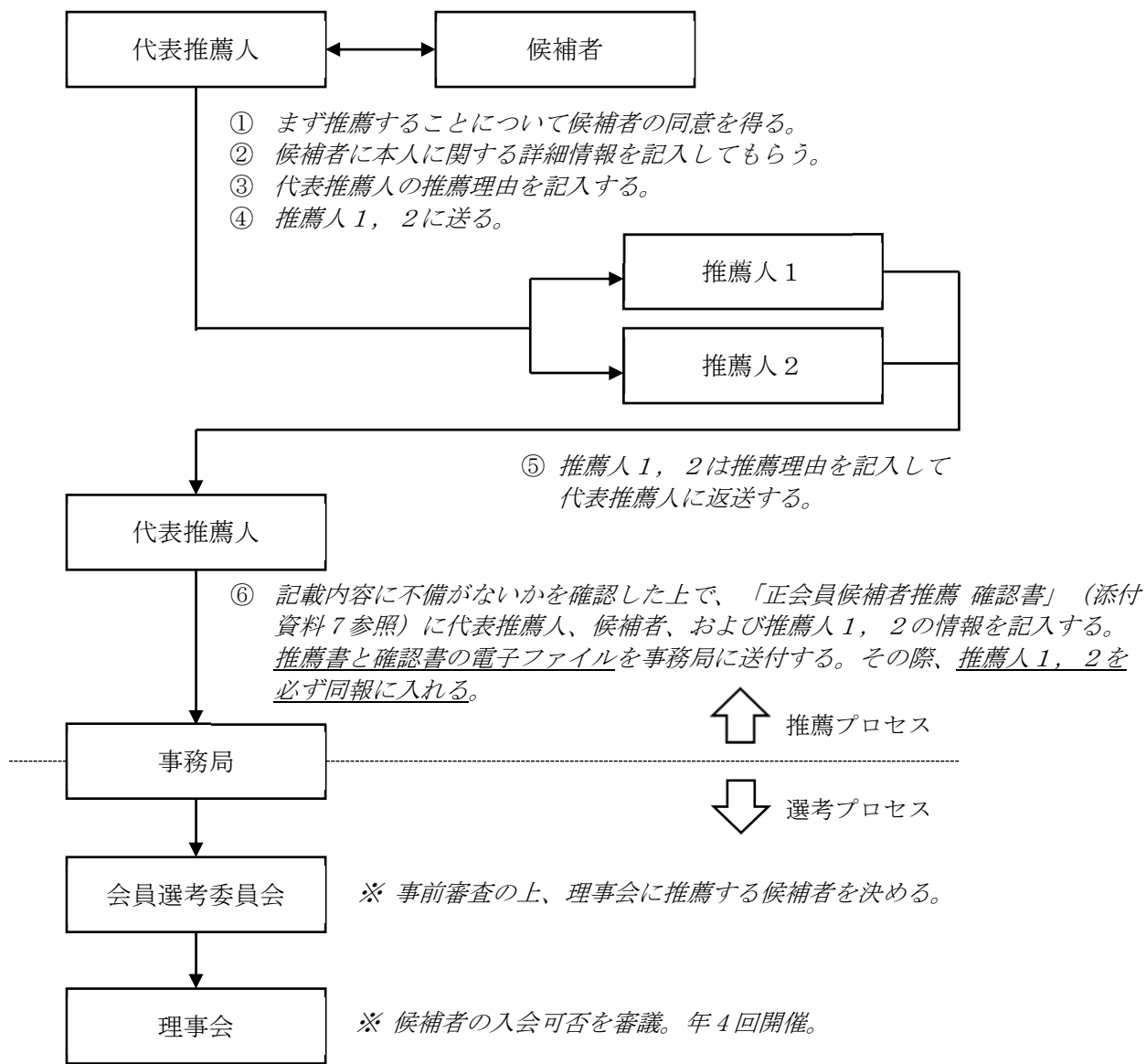
代表推薦人は完成した推薦書の記載内容に不備がないかを確認した上で、推薦人1、2を同報に入れて、事務局に推薦書の電子ファイルを提出する。

#### (5) 選考プロセス

代表推薦人から送付された推薦書は、所定の手順により会員選考委員会にて選考され、理事会において入会が承認される。原則として理事会開催日をもって入会日とする。

以上のプロセスについて、次ページの「正会員候補者推薦書の作成フローチャート」を参照されたい。  
以上

## 正会員候補者推薦書の作成フローチャート



※ 推薦書は候補者の個人情報を含むため、電子メールでのやり取りの際にはファイルにパスワードをかけることとする。

※ 原則として、受付期限までに事務局に届いた推薦書について、会員選考委員会で審査し、その後に開催される(最初の)理事会において入会の可否を決定する。

※ 代表推薦人以外の推薦人が 3 名以上の場合には、様式を電子ファイル上で適宜変更してもよい。

#### 添付資料4 正会員候補者推薦書記入要領

- (1) 正会員候補者推薦書様式は Website からダウンロードして用いる。必要な場合は事務局から送付する。添付した記入例を参考にして記入する。産業界と学界に分けて例を示してあるが、必ずしも例に囚われず、候補者の状況に応じて適宜記入内容を変更して構わない。
- (2) 候補者の入会審査は、会員選考委員会規程の定める「別表 会員選考委員の構成分野」(下記)である「専門分野」にて行うので、主分野を8つの専門分野から一つのみ選んで番号で記入する(必須)。また、候補者の資質のよりよい把握のために、副分野を専門分野および横断領域(複数可)から選んで番号・記号で記入できる(任意)。

##### (専門分野)

- 第1分野 機械系(ロボット、自動車、船舶海洋、航空宇宙、計測・制御、音響などを含む。)
- 第2分野 情報・電気電子系(エレクトロニクス、電力、通信、コンピューターサイエンス、情報技術、量子情報などを含む。)
- 第3分野 化学・材料系(応用化学、化学工学、金属、セラミックス、高分子などを含む。)
- 第4分野 建設系(土木、建築、都市工学などを含む。)
- 第5分野 資源・エネルギー系(環境、発電、蓄電、送配電、原子力・放射線などを含む。)
- 第6分野 物理系(物理、応用物理、地球惑星、地質を含む。)
- 第7分野 生命系(農学、医学、薬学、生物、生化学、食品などを含む。)
- 第8分野 経営・政策系(経営・マネジメント、金融、知財、人文社会、科学技術政策・行政などを含む。)

##### (横断領域)

- A領域 設計・製造(デザイン、管理、人間工学、品質工学を含む。)
- B領域 環境
- C領域 安全・福祉(防災、生活科学、加齢工学を含む。)
- D領域 ナノテクノロジー
- E領域 教育・技術倫理
- F領域 その他(自由記述)

#### (3) 推薦理由の書き方例

##### <学界推薦文例>

- ・ ○○氏は○○における○○の分野で国際的に著名な多くの業績をあげ、我が国の○○学を代表する研究者である。現在○○学会長として学術の振興、技術の発展に貢献しており、本会員にふさわしい方である。
- ・ 候補者○○氏は○○の分野において世界的に広く知られており、新しい研究方法論を創り出し、新しい機能を有する○○を多数創製し、その成果は高く評価されている。既に本アカデミーの○○部会に協力、貢献しており、ここに推薦する。
- ・ ○○氏は一貫して○○の研究に従事してきたが○○から○○に至るまで、次々に新しい研究分野を開拓、育成してきた。また、○○大学○○研究所の○○に関する中心的役割を果たすなど、研究指導者、研究リーダー、マネージャとしての力量もめざましい。
- ・ ○○氏は研究者として優れた業績をあげ、特に○○に関する壮大な研究プロジェクトは、広く世界的に注目されている。このように、氏の研究は独創的かつ実践的な成果をあげてきた。現在、○○大学工学部教授として教育の実践にあたるなど、本会会員として誠にふさわしい。

##### <産業界推薦文例>

- ・ ○○氏は○○(株)○○研究所において○○の実用化研究に携わり、その功績により○○年○○賞を受賞する等、○○の事業化ならびに○○の適用拡大と普及に果たした功績は本会会員としての資格十分と認め、推薦する。
- ・ ○○氏は○○工学の分野で○○技術を開発し、それを基に○○を開発、我が国の○○に大きく寄与した。定款第3章第5条(1)により、会員として適格と考え推薦する。
- ・ ○○氏は企業の研究者として○○の発明開発をしたばかりでなく、○○研究所所長として、特に○○の研究開発の推進にも指導的役割を果たしてきた。既に、当アカデミー○○部会にご参加、協力いただいている。

- ・ ○○氏は○○設計に関して卓越した研究成果をあげると共に、○○産業の発展に大きく貢献してきた。国際的経営者としても大変活躍し、○○外国人会員にも推薦され、本アカデミー会員として優れた候補者である。

<活躍が期待される分野の記載例>

※ 候補者が入会した場合、本アカデミーにおいて、どのような活躍が期待できるかを記入することが望ましい。

- ・ ○○氏は○○年～○○年にわたり○○国に滞在し、○○大学にて学位を取得し、その後も○○研究所にて研究に従事したことから、○○国に対し理解が深く知己も多い。したがって今後○○国との二国間交流の中心となって活躍することが期待される。
- ・ ○○氏は○○において長年にわたり○○の技術戦略立案に携わってきたので、その知識を生かしてプロジェクトメンバーとしての活躍を期待したい。
- ・ ○○氏は○○について強い関心と見識を持ち、それについて EAJ 内でプロジェクトを新設し、さらに深く掘り下げることを望んでいる。

#### 添付資料5 学位(博士)に関する候補者の取り扱い

2013.2.14 (理事会) 確認

##### 1. 基本的考え方

これまでの理事会、企画・運営委員会および会員選考委員会での議論を踏まえ、さらには定款第3条の「(工学等)に関連する分野に関し、著しく貢献した広範な識見を有する指導的人材」との規定を受けて、学位(博士)を有することをガイドラインの一つとする。

一方で、必ずしも学位(博士)の取得を要件としない、産業界や行政機関さらには一部分野の学术界からの候補者は、学位(博士)を有しない場合には、下記2のファクターで複数該当する事を基準とする。

##### 2. 選考に当たって考慮すべきファクター

- ◆ 技術開発：独創性に基づいて新しい技術を切り開き、大きな貢献をした。
- ◆ 論文・著書・特許・作品：その分野において、大きな影響を与えた学術的・技術的業績を有する。
- ◆ 顕彰・受賞：政府や学協会などから表彰を受けている。
- ◆ 教育活動：工学系高等教育の分野において、長年業績を積んでいる。
- ◆ 学協会活動：工学系などにおいて、会長・理事・委員長などを務め、指導的立場にある。
- ◆ 社会貢献：公的な機関（例えば、審議会）において委員などを務めている。NPO 法人・公益法人などにおいて、公益的活動が顕著である。
- ◆ 経営・行政：経営者、行政官として、工学・工業発展に尽力し、その業績が顕著である。

以上



区分	(✓)正会員／ 国籍(日本)		
候補者氏名	フリガナ		
	氏 名		
	ローマ字 (姓, 名)		
	生年月日	年 月 日生 ( 歳)	
勤務先	名称・部 門		
	(英文)		
	役 職	(英文)	
	所在地	〒	
		電話:	FAX:
自 宅	住 所	〒	
		電話:	
		FAX:	E-mail:

(注)審査分野: 主分野を「専門分野」から1つ、数字を選んで記入(必須)。副分野は「専門分野」及び「横断領域」から複数記入可(任意)。

【専門分野】1.機械系 2.情報・電気電子系 3.化学・材料系 4.建設系 5.資源・エネルギー系 6.物理系 7.生命系 8.経営・政策系

【横断領域】A.設計・製造 B.環境 C.安全・福祉 D.ナノテクノロジー E.教育・技術倫理 F.その他(自由記載)

推 薦 理 由				
代表推薦人	氏名		E-mail	
	勤務先			
推薦人1	氏名		勤務先	
推薦人2	氏名		勤務先	

事務局記入欄 (受付番号: )

推薦書受信	分野委員宛発	主査返信受信

会員選考委員会	理事会
推薦 保留	承認 否決

特記事項:

候補者に関する事項	
学 歴 ・ 学 位 (論文名も記載)	
職 歴	
業 績	
受賞歴	
外国との関係	※以下に該当する方は、 <u>現状について</u> 、国、機関名、開始時期をご記入ください。 該当しない方は( )に✓を入れてください。 ・外国の政府、企業、大学等との契約関係を有する (兼業、共同研究等) / 該当しない( ) ・外国政府等からの資金提供を受けている (奨学金、研究費等) / 該当しない( )

# 記入例(学界用) 正会員候補者推薦書

20××年〇月×日現在

「正会員候補者推薦の手順」も参照の上、作成してください

公益社団法人日本工学アカデミー2025 改訂

区分	(✓)正会員／ 国籍(日本)			
候補者氏名	フリガナ	コウガク ハナコ		審査分野(※注参照)
	氏 名	工学 花子		・主分野:
	ローマ字 (姓, 名)	KOGAKU HANAKO		・副分野:
	生年月日	(西暦) 年 月 日 ( 歳)		(男・女)
勤務先	名称・部署	〇〇大学大学院工学研究科		
	(英文)	Graduate School of Engineering, Abcd University		
	役 職	研究科長	(英文)Dean	
	所在地	〒		
	電話:	FAX:	E-mail:	
自 宅	住 所	〒		
		電話:	FAX:	E-mail:

(注)審査分野:主分野を「専門分野」から1つ、数字を選んで記入(必須)。副分野は「専門分野」及び「横断領域」から複数記入可(任意)。

【専門分野】1.機械系 2.情報・電気電子系 3.化学・材料系 4.建設系 5.資源・エネルギー系 6.物理系 7.生命系 8.経営・政策系

【横断領域】A.設計・製造 B.環境 C.安全・福祉 D.ナノテクノロジー E.教育・技術倫理 F.その他(自由記載)

推 薦 理 由				
代表推薦人	氏名		E-mail	
	勤務先			
<p>※多面的な視点からの推薦理由を伺いたく、各推薦文が類似の文面とならないようご配慮ください。</p> <p>※審査分野(主分野・副分野)について、推薦人の少なくとも1名は選択理由について触れてください。</p>				
推薦人1	氏名		勤務先	
推薦人2	氏名		勤務先	

事務局記入欄 (受付番号: )

推薦書受信	分野委員宛発	主査返信受信

会員選考委員会		理事会	
	推薦 保留		承認 否決

特記事項:

候補者に関する事項	
学 歴 ・ 学 位 (論文名も記載)	19XX 年 3 月 ○○大学□□学部△△学科卒業 19XX 年 3 月 ○○大学大学院□□研究科 修士課程(△△専攻)修了 19XX 年 3 月 ○○大学大学院□□研究科 博士課程(△△専攻)修了 同 工学博士(○○大学) ※1991 年 7 月以降修了者は、博士(工学)、○○大学と記載 「(学位論文名)」 19XX 年○月～20XX 年□月 △△国○○○○大学にて博士研究員
職 歴	20XX 年 4 月 ○○大学大学院□□研究科 (△△専攻)助教 20XX 年 4 月 ○○大学□□□□研究所 准教授 20XX 年 4 月 ○○大学大学院□□研究科 (△△専攻)教授 20XX 年 4 月～200XX 年 9 月 ○○国△△△大学にて客員教授 20XX 年 4 月～現在 ○○大学大学院工学研究科長 ……など、現職までの <u>主要な職歴</u> を記入。
業 績	会員候補者推薦書記入要領、学位(博士)に関する候補者の取り扱い、を参考に、下記項目について、 <u>主要なものを簡潔にご記入</u> ください。 <b>【研究業績】</b> ・従事した研究分野と主要な研究業績、学術界、社会・産業へのインパクトなどについて簡潔に文章で記入。 ・参考情報として、リーダーや研究員を務めた国家プロジェクト、国際共同研究などを例示してもよい。 <b>【人材育成業績】</b> ・人材育成、教育改革などの教育分野における業績を簡潔に文章で記入。 <b>【社会貢献業績】</b> ・学会役員、委員会、審議会委員、社会サービスなどの社会貢献業績のポイントが分かるように記入。 <u>全リストは必要ありません。</u> <b>【論文・著書など】</b> (任意) ・参考情報として、代表的な論文、著書などを例示してもよい。 <u>全リストは必要ありません。</u>
受賞歴	公的な表彰、褒章、叙勲 論文賞、フェローなどの学会の表彰 外国アカデミー推挙、外国叙勲 ……などの受賞した <u>主要な賞の名称(受賞年)</u> を記入。
外国との関係	<u>※以下に該当する方は、現状について、国、機関名、開始時期(開示可能な内容)をご記入ください。該当しない方は( )に✓を入れてください。</u> ・外国の政府、企業、大学等との契約関係を有する (兼業、共同研究等) / 該当しない( ) △△国 ○○大学大学院 □□研究科 教授を兼任(20XX 年○月～) △△国 ○○大学大学院 □□研究センターと共同研究を実施(20XX 年○月～) ・外国政府等からの資金提供を受けている (奨学金、研究費等) / 該当しない( ) △△国 ○○機関から、□□奨学金の給付を受けている(20XX 年○月～) △△国 ○○機関から、□□研究費の提供を受けている(20XX 年○月～)

# 記入例(産業界) 正会員候補者推薦書

20××年〇月×日現在

「正会員候補者推薦の手順」も参照の上、作成してください

公益社団法人日本工学アカデミー2025 改訂

区分	(✓)正会員 / 国籍(日本)			
候補者氏名	フリガナ	コウカク ハナコ		審査分野(※注参照)
	氏 名	工学 花子		・主分野:
	ローマ字 (姓, 名)	KOGAKU HANAKO		・副分野:
	生年月日	(西暦) 年 月 日 ( 歳)		(男・女)
勤務先	名称・部署	〇〇株式会社 研究開発センター		
	(英文)	R&D Center, Abcd Corporation		
	役 職	代表取締役・研究所長	(英文)Executive Director	
	所在地	〒		
電話:		FAX:	E-mail:	
自 宅	住 所	〒		
		電話:	FAX:	E-mail:

(注)審査分野:主分野を「専門分野」から1つ、数字を選んで記入(必須)。副分野は「専門分野」及び「横断領域」から複数記入可(任意)。

【専門分野】1.機械系 2.情報・電気電子系 3.化学・材料系 4.建設系 5.資源・エネルギー系 6.物理系 7.生命系 8.経営・政策系

【横断領域】A.設計・製造 B.環境 C.安全・福祉 D.ナノテクノロジー E.教育・技術倫理 F.その他(自由記載)

推 薦 理 由				
代表推薦人	氏名		E-mail	
	勤務先			
<p>※多面的な視点からの推薦理由を伺いたく、各推薦文が類似の文面とならないようご配慮ください。</p> <p>※審査分野(主分野・副分野)について、推薦人の少なくとも1名は選択理由について触れてください。</p>				
推薦人1	氏名		勤務先	
推薦人2	氏名		勤務先	

事務局記入欄 (受付番号: )

推薦書受信	分野委員宛発	主査返信受信

会員選考委員会		理事会	
	推薦 保留		承認 否決

特記事項:

候補者に関する事項	
学 歴 ・ 学 位 (論文名も記載)	19XX 年 3 月 ○○大学□□学部△△学科卒業 19XX 年 3 月 ○○大学大学院□□研究科 修士課程(△△専攻)修了 19XX 年 3 月 ○○大学大学院□□研究科 博士課程(△△専攻)修了 同 工学博士(○○大学) ※1991 年 7 月以降修了者は、博士(工学)、○○大学と記載 「(学位論文名)」 ……学位のある方は、博士論文タイトル、取得大学、取得年を記入
職 歴	20XX 年 4 月 ○○株式会社入社 20XX 年 4 月 ○○研究所主任研究員/△△事業部□□技術部○○課長 20XX 年 4 月 ○○研究所長/△△事業部□□技術開発部長 20XX 年 4 月 取締役技師長/取締役△△事業部長 20XX 年 4 月 ～現在 代表取締役・研究所長  ……など、現職までの <u>主要な職歴</u> を記入
業 績	会員候補者推薦書記入要領、学位(博士)に関する候補者の取り扱い、を参考に、下記項目について <u>主要なものを簡潔に記入</u> ください。 <b>【研究開発業績】</b> ・ 従事した研究分野と主要な研究業績、企業・産業界に与えたインパクトなどについて簡潔に文章で記入。 ・ リーダーや研究員として推進した国家プロジェクト、産学連携研究、業界の新技术振興、新事業開発、国際標準化などの活動を記入。 ・ 科学技術振興政策、イノベーション人材育成、技術経営・知財政策などの活動を記入。  <b>【社会貢献】</b> ・ 学会役員、委員会、審議会委員、社会サービスなどの社会貢献活動(期間)を記入。  <b>【論文・特許など】</b> 代表的な論文、特許、記事などを数件記入。
受賞歴	○○工業協会技術賞 □□学会論文賞公的な褒章  ……など、受賞した賞の名称(受賞年)を記入。
外国との関係	※以下に該当する方は、現状について、国、機関名、開始時期(開示可能な内容)をご記入ください。該当しない方は( )に✓を入れてください。  ・外国の政府、企業、大学等との契約関係を有する (兼業、共同研究等) / 該当しない( ) △△国 ○○大学大学院 □□研究科 教授を兼任(20XX 年○月～) △△国 ○○大学大学院 □□研究センターと共同研究を実施(20XX 年○月～) ・外国政府等からの資金提供を受けている (奨学金、研究費等) / 該当しない( ) △△国 ○○機関から、□□奨学金の給付を受けている(20XX 年○月～) △△国 ○○機関から、□□研究費の提供を受けている(20XX 年○月～)

## 正会員候補者推薦確認書

年 月 日

会員選考委員長 殿

【代表推薦人】	
氏名	
所属・勤務先	
メールアドレス	
電話番号	

■下記の方を正会員候補者として、別添のとおり推薦いたします。

【候補者情報】	
氏名	
所属・勤務先、役職等	
国籍	日本
帰化許可日*	年 月 日(*該当する場合のみ記入)

【推薦人1情報】	
氏名	
所属・勤務先	
メールアドレス	
【推薦人2情報】	
氏名	
所属・勤務先	
メールアドレス	

## &lt;事務局から代表推薦人へのお願い&gt;

- ・本確認書と推薦書(wordファイル)を事務局宛にメールで送付してください。
- ・事務局より推薦人の皆様に受領確認のメールをお送りしますので、送付の際は、推薦人1、推薦人2の方を必ず同報に入れてください。
- ・1週間経過しても、確認のメールがお手元に届かない場合は、事務局までご連絡ください。

【推薦書送付先】membership@ej.or.jp

- ・※個人情報を含みますので、送付の際はパスワード設定等、取り扱いに十分ご注意ください。

添付資料 8 正会員候補者推薦 連絡書

※この「正会員候補者推薦連絡書」は、代表推薦人を選定できない場合に EAJ 事務局に提出いただく際の様式です。代表推薦人を選定できた場合は提出の必要はありません。

年 月 日

会員強化委員会委員長 殿

下記の方を正会員候補者としてご連絡いたします。

氏名：

国籍：日本

勤務先・役職：

連絡先（電話／E-mail）：

正会員に相応しいと判断される理由：

現在の状況 ……該当する（ ）内に○を記入してください。

- 1) 本人の入会意思 （ ） 確認済み （ ） 未確認
- 2) 自分は代表推薦人にはなれないが、  
（ ） 推薦人にはなってもよい （ ） 推薦人も辞退したい
- 3) 代表推薦人・推薦人の適任者の心当たり（ある場合のみ記入）

差出人 氏名：  
勤務先：  
電話／FAX：  
電子メール：



※本手順書は、2009年10月1日に初めて制定され、2016年8月9日改訂された。2017年8月8日に新しく改訂された。2017年8月8日改訂版は、2017年8月24日理事会で承認された。

○2018年2月6日会員選考委員会

- 1) 「客員会員候補者の選考について」(2017年11月22日理事会改正)を追記
- 2) それに伴い「会員候補推薦書」等に、正会員・客員会員の選択、国籍記入ができるように書式を一部変更した。
- 3) 「付：現在すでにある活動の場」(名称も「現在、会員が活動可能な委員会、プロジェクト等」に変更)の記載事項については、事務局が会員選考委員会の開催日に更新し、更新日付を付すことを決定した。
- 4) 使いやすさを重視し、体裁についても一部変更した。

○2018年11月13日会員選考委員会

- 1) 「会員選考委員会規程」の制定(2018年11月21日理事会制定)に応じて、整合性をとった。特に、選考対象を専門分野(従来の「基盤分野」から呼称変更)から一つのみ選択することで統一した。
- 2) その他、記載情報の更新と、一部の表現を改訂した。

○2019年11月20日 理事会

- 1) 「客員会員候補の選考について」の「補足説明」に、海外アカデミーの対象を明記、国内に活動基盤の意味を明記する改定を行った。

○2020年11月13日 理事会

- 1) 「会員候補者推薦書」における代表推薦人の自筆署名・捺印について、今後これを省略することとし、「会員候補者推薦要領」および「会員候補者推薦書の作成フローチャート」の記載を改訂した。
- 2) それに伴い、「会員候補者推薦書」書式を一部変更した。

○2022年2月8日 理事会

- 1) 65歳以上の正会員の会費を年額5万円から3万円に改定することを議決した。

○2022年6月6日 社員総会

- 1) 65歳以上の正会員の会費を年額5万円から3万円に改定することを承認された。

○2022年6月6日 理事会

- 1) 「会員候補者推薦書」に外国との関係に関する項目を追加した。

○2025年2月13日 理事会

- 1) 「正会員候補者推薦書」書式を一部変更した。
- 2) 客員会員候補者推薦の手順書を別に制定することに伴う修正等を行った。

○2025年11月13日 理事会

- 1) 「正会員候補者推薦確認書」を追加した。
- 2) 正会員候補者推薦連絡書の提出先を会員選考委員長から会員強化委員会委員長に変更した。